

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	農業	科目	農業と環境	単位数	3		
年組	1年1組		教科書(発行所)	農業と環境(実教出版)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目	
			知	思	能		
4	第1章 農業と環境を学ぶ	1 農業学習とは何か 2 農業と環境の学び方 3 学校農業クラブ活動	○	○		学習の目標 ○自ら作物を栽培し、作物の成長に関わる要因を気付かせる。 ○身のまわりの地域の環境を調べることにより、地域文化と生活の関わりについて知る。 ○農業が持つ多面的機能を、作物栽培を通し、楽しく学習させる。	
5	第3章 栽培と飼育の基礎	1 作物の特性と栽培の仕組み (中間考査)	○	○	○		
6	第4章 栽培・飼育と環境のプロジェクト	1 農業と環境のプロジェクトの実際 6 トマトの栽培と利用	○	○	○		
7		(期末考査)	○	○	○	授業の進め方 ○生徒一人一人が楽しく活動できるよう、それぞれにほ場を設ける。 ○生産プロジェクトを実施し、記録や反省・評価を行うとともに生徒が自由に活動できる場となるよう配慮する。	
7	第4章 栽培・飼育と環境のプロジェクト	2 イネの栽培と利用 (4)収穫 米粒の成熟過程 収穫の適期 刈り取り・乾燥・脱穀・調整 収量の算出 (5)イネの利用	○	○	○	学習の方法 ○果菜類を定植から収穫まで一人で行わせ、観察や記録を確実に行わせる。	
8・9			○	○	○		
9			○	○	○	評価の観点 知識・技術 環境保全や栽培方法の基礎・基本的な内容を理解しているか。 基本的な栽培技術が身に付いているか。 応用・発展的な内容であるか。 思考・判断・表現 実験・実習の記録が整理され、結果に対する考察が十分であるか。 主体的に学習に取り組む態度 地域の自然に関心を持ち、調査・研究を意欲的に行っているか。	
10		7 ハクサイの栽培と利用 (3)栽培の実際 たねまきと育苗 施肥と耕うん 植え付けの実際	○	○	○		
11		植えつけ後の作業 収穫と調整	○	○	○		
12		(期末考査)	○	○	○		
12	第4章 栽培・飼育と環境のプロジェクト	8 ダイコンの栽培と利用 ダイコンの利用 プロジェクト学習のまとめ 記録の内容やデータの図表化 結果の分析・考察 プロジェクトの検証	○	○	○	評価の方法 ○農業に対する興味・関心に重点を置く。 ○作物を観察し、記録が残せているかを評価する。 ○自分で考えたり行動できたかを評価する。 ○驚きや不思議を感じる事ができたかを評価する。 ○報告書を提出させ、様式やまとめ方等についても評価する。	
1			○	○	○		
2			○	○	○		
3		(学年末考査) 次に取り組む目標や課題	○	○	○		
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。							

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	農業	科目	総合実習	単位数	3			
年組	1年 1組		教科書(発行所)					
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目		
			知	思	態			
4	プロジェクト活動 及び栽培管理	果樹 ○甘夏・河内晩柑の栽培 野菜 ○露地・施設野菜の栽培 草花 ○草花類の栽培 加工 ○農産物加工 (上記4部門をローテーション で実施)		○		学習の目標 果樹・野菜・草花・加工の4部門の実習を通して農業に対する興味・関心を高める。 地域農業を理解し、地域の一員として地域貢献する意欲と態度を養う。		
5				○				
6				○	○			
7				○				
							○	
							○	
							○	
						授業の進め方 各班、果樹・野菜・草花・加工の4部門をローテーションで実施する。 4部門の実習を行うことにより、基礎的、基本的な知識・技術の定着を図る。		
7	8・9 9 10 11 12	果樹 ○甘夏・河内晩柑の栽培 野菜 ○露地・施設野菜の栽培 草花 ○草花類の栽培 加工 ○農産物加工 (上記4部門をローテーション で実施)	○			学習の方法 果樹・野菜・草花の基本的な栽培技術や加工の基本的な製造技術について、実践を通して身に付ける。 家庭では、実習記録の記入を行い、実習内容の知識の定着を図る。		
					○			
					○			
							○	
					○		○	
							○	
						評価の観点 <知識・技術> 栽培方法・加工方法の基礎・基本的な内容を理解しているか。 基本的な栽培技術・加工技術が身に付き、その技術を活用することができるか。 <思考・判断・表現> 実験・実習の記録が整理され、結果に対して科学的な考察がされているか。 <主体的に学習に取り組む態度> 実習に関心を持ち、積極的に学ぶ姿勢を示しているか。		
12	1 2 3	果樹 ○甘夏・河内晩柑の栽培 野菜 ○露地・施設野菜の栽培 草花 ○草花類の栽培 加工 ○農産物加工 (上記4部門をローテーション で実施)	○			評価の方法 実習内容の定着状況(知識・技術)や授業中の活動状況(授業態度、実習への取組)、実習記録簿の記入状況、農業クラブ活動により評価する。		
				○				
					○		○	
					○		○	
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。								

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	農業	科目	農業と情報	単位数	2		
年組	1年1組		教科書(発行所)	農業と情報(実教出版)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目	
			知	思	能		
4	第1章 私たちの生活と 農業の情報化 第2章 社会を支えるコンピュータ	1 情報化社会における私たちの生活	○	○	<p>学習の目標</p> <p>情報処理の基礎的・基本的な知識と技術について、身近な例や実習などを踏まえて学習し、情報や情報技術を活用する能力を身に付ける。</p>		
5		2 情報とメディア	○	○			
		3 情報化社会とモラル	○	○			
		4 農業を支える情報	○	○			
		(中間考査)	○	○			
6		1 コンピュータのしくみ	○	○			
		2 データや情報の表現	○	○			
7		3 情報通信ネットワーク	○	○	<p>授業の進め方</p> <p>基礎的・基本的な知識を学習し、問題を使った実技を反復させることで、技術を身に付けさせる。</p>		
	4 インターネットのしくみ	○	○				
		(期末考査)	○	○			
7	第3章 コミュニケーションと 情報デザイン	1 情報表現のためのソフトウェア	○	○	<p>学習の方法</p> <p>知識の習得と共に、実技を通してコンピュータソフトを活用する技術を身に付けさせる。</p>		
8・9		2 文書作成と表現	○	○			
9		〃	○	○			
		〃	○	○			
		〃	○	○			
		〃	○	○			
10		〃	○	○			
		2 文書作成と表現	○	○			
11		〃	○	○			
12		〃	○	○			
		期末考査	○	○	<p>評価の観点</p> <p>○知識・技術 農業に関する情報等をその目的や条件に合わせて活用できる知識と技術を体系的に理解できている。</p> <p>○思考・判断・表現 農業情報の活用について、環境への配慮や情報リテラシー等職業人に求められる倫理観を持って思考を深め、科学的な根拠に基づいて創造的に判断し、その過程や結果を適切に表現できる。</p> <p>○主体的に学習に取り組む態度 農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。</p>		
12	第3章 コミュニケーションと 情報デザイン	3 表計算ソフトウェアの応用	○	○			
1		〃	○	○			
2		〃	○	○			
		〃	○	○			
		〃	○	○			
		〃	○	○			
		〃	○	○			
		(学年末考査)	○	○			
3		3 表計算ソフトウェアの応用	○	○	<p>評価の方法</p> <p>定期考査・課題・実技・提出物・資格取得・学習態度を総合的に判断して評価する。</p>		
		〃	○	○			
<p>【備考】</p> <p>※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。</p>							

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	農業	科目	総合実習	単位数	4	
年組	2年1組		教科書(発行所)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目
			知	思	態	
4 5 6 7	カンキツ (甘夏・河内晩柑) 栽培および プロジェクト活動	1 年間管理計画	○			学習の目標 果樹の生理作用や栽培の基礎知識を理解し、安定した柑橘栽培を行う技術を身に付ける。 グローバルGAPに取組み、国際的な視野で柑橘栽培を行う態度を養う。 果樹栽培と自然環境の関係性や安全な農産物について考え、生産者としての責任感を養う。
		2 春肥	○			
		3 害虫防除		○		
		4 生育調査			○	
		4 生育調査	○			
		5 接ぎ木			○	
		6 除草	○			
		〃		○		
		〃		○		
						授業の進め方 1年次に身に付けた基礎・基本的な知識・技術を活用して、柑橘栽培を行い、応用的な知識・技術の定着を図る。
7		7 夏肥			○	日頃の実習内容の記録を電子データにまとめたり、果樹園の改善点を発見し改善したりして、グローバルGAPの基礎的な知識・スキルの定着を図る。
8・9		8 荒摘果	○			学習の方法 果樹栽培の応用的な知識・技術について、実践を通して身に付ける。 実習記録の記入や清掃の徹底を行い、グローバルGAPに関する基礎的な知識・技術を身に付ける。
		〃		○		
		〃			○	
9		9 病虫害防除	○			
		〃			○	
		10 防風垣刈り込み			○	
		11 仕上げ摘果	○			
		〃			○	
		13 夏秋梢剪定	○			
		〃			○	
		〃			○	
						評価の観点 <知識・技術> 果樹栽培について、基本的な概念や生理現象を理解し、知識を身に付けている。柑橘栽培の応用的な技術及びグローバルGAPの技術を身に付けている。 <思考・判断・表現> 実験・実習の記録が整理され、思考を深く科学的に考察し表現できる。 <主体的に学習に取り組む態度> 柑橘栽培に関心を持ち、意欲的に技術を習得しようとする態度が身に付いている。
12		13 夏秋梢剪定			○	評価の方法 実習内容の定着状況(知識・技術)や授業中の活動状況(授業態度、実習への取組)、実習記録簿の記入状況、農業クラブ活動により評価する。
		〃			○	
		14 収穫・袋詰め	○			
		〃			○	
		〃			○	
1		15 GAP審査会準備	○			
		16 GAP審査会	○			
		17 収穫・袋詰め			○	
		〃			○	
2						
		17 収穫・袋詰め	○			
3						
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	農業	科目	総合実習	単位数	4	
年組	2年1組		教科書(発行所)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目
			知	思	態	
4	1 野菜苗の管理 2 メロンの栽培	1 出荷準備	○			学習の目標 実習を中心に、観察や体験から野菜栽培に関する知識や技術を学ぶ。
5		2 草姿の調整		○		
6		3 育苗ハウス清掃		○		
7		1 は種			○	
		2 耕起		○		
		3 マルチング		○		
		4 定植		○		
		5 整枝			○	
		6 受粉		○		授業の進め方 専攻班での実習・プロジェクト活動を通して、知識・技術を習得する。
7	3 露地野菜の栽培 キャベツ・ハクサイ等	7 追肥 8 着果			○	学習の方法 栽培計画に沿って調査・研究を行う。そして、その成果をまとめ発表する。
8・9		1 本畑準備			○	
9		2 定植・かん水		○		
10		3 かん水・防除		○		
11		4 中耕・除草		○		
12		5 収穫		○		
12	4 育苗	1 育苗ハウス環境整備			○	<知識・技術> 野菜の特性を理解しているか。基本的な栽培技術が身に付いているか。応用・発展的な内容であるか。栽培方法を理解しているか。 <思考・判断・表現> 実習の記録が整理され、結果に対する考察が十分であるか。 <主体的に学習に取り組む態度> 栽培実習の内容を理解し、主体的・計画的に取り組む、意欲的に進めているか。
1		2 電熱温床の設置			○	
2		3 トンネルの設置		○		
3		4 は種		○		
		5 鉢上げ		○		評価の方法 態度・技術・知識・服装・実習記録簿等を総合的に判断し評価する。
		6 つぎ木		○		
		7 販売準備		○		
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	農業	科目	総合実習	単位数	4	
年組	2年1組		教科書(発行所)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目
			知	思	態	
4	1 春まき一年草	1 マリーゴールド栽培・管理	○			学習の目標 ○花栽培に関する基礎知識を理解し、季節ごとの草花栽培を行うための技術を身に付ける。 ○地域花壇の緑化活動に取組み、環境保護を行う態度を養う。 ○草花栽培と自然環境の関係性について考え、生産者としての責任感を養う。
5		”		○		
6		2 ダイアンサス栽培・管理	○			
		3 パーベナ栽培・管理		○		
		4 メランポジウム栽培・管理	○			
		5 ケイトウ栽培・管理		○		
		”		○		
7						授業の進め方 ○1年次に身に着けた基礎・基本的な知識・技術を活用して、草花栽培を行い、応用的な知識・技術の定着を図る。 ○日頃の実習内容の記録をまとめたり、花壇緑化活動の改善を行う。
7	2 秋まき一年草	1 秋まき一年草栽培		○		学習の方法 ○草花栽培の応用的な知識・技術について、実践を通して身に付ける。 ○実習記録の記入や農具の管理を行い、安全な作業活動の知識・技術を身に付ける。
8・9		”		○		
9		2 秋まき一年草鉢上げ	○			
		”		○		
		”		○		
10	3 冬の草花管理	3 秋まき一年草鉢替え	○			
		4 花壇管理	○			
		”		○		
		”		○		
11		5 キンセンカ栽培・管理	○			評価の観点 <知識・技術> 草花栽培について、基本的な概念や生理現象を理解し、知識を身に付けている。草花栽培の応用的な技術を身に付けている。 <思考・判断・表現> 実験・実習の記録が整理され、思考を深め科学的に考察し表現できる。 <主体的に学習に取り組む態度> 草花栽培に関心を持ち、意欲的に技術を習得しようとする態度が身に付いている。
12						
12	6	6 ビオラ栽培・管理		○		評価の方法 実習内容の定着状況(知識・技術)や授業中の活動状況(授業態度、実習への取組)、実習記録簿の記入状況、農業クラブ活動により評価する。
1		7 パンジー栽培・管理	○			
2		”		○		
		8 ガーベラ栽培・管理		○		
		”		○		
		”		○		
3		”	○			
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	農業	科目	総合実習	単位数	4		
年組	2年 1組		教科書(発行所)				
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目	
			知	思	態		
4	食品製造 ※実習科目により、 評価の観点は、 総合的に判断する。	1. オリエンテーション	○			学習の目標 実習を中心に行い、衛生面や安全面、加工実習から食品加工に関する知識や技術を学ぶ。	
5		2. 年間計画 〃	○	○			
6		3. 農産物加工 (1)ジャム製造 〃 〃 (3)マーマレード製造 〃	○ ○ ○ ○		○ ○ ○		
7					○		授業の進め方 専攻班での実習・プロジェクト活動をおして知識・技術を習得する。
7		4. 製菓製パン加工			○		
8・9		(1) スポンジケーキ製造 〃 〃	○ ○ ○		○ ○ ○		学習の方法 加工実習の年間計画に沿って調査・研究・実習を行う。そしてその成果をまとめ発表する。
9		(2) パウンドケーキ製造 〃	○ ○		○ ○		
10	〃 (3) マドレーヌ製造 〃 〃	○ ○ ○ ○		○ ○ ○			
11	〃 〃	○ ○		○ ○			
12					○	評価の観点 <知識・技術> 衛生・安全に適していることを理解しているか。基本的な加工技術が身についているか。応用、発展的な内容であるか。加工方法を理解しているか。 <思考・判断・表現> 実験・実習の記録が整理され、結果に対する考察が十分であるか。 <主体的に学習に取り組む態度> 加工実習の内容を理解し、主体的、計画的に取り組む、意欲的に進めているか。	
12	5. プロジェクト学習 (1) 地域の特産品の活用 (2) 地域の特産品の活用 〃 〃 〃 (3) 地域の特産品の活用 〃 〃 〃				○	評価の方法 態度・技術・知識・服装・実習記録簿の提出状況を総合的に判断し評価する。	
1					○		
2					○		
3					○		
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。							

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	農業	科目	農業と情報	単位数	2	
年組	2年1組		教科書(発行所)	農業と情報(実教出版)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目
			知	思	態	
4 5 6 7	第3章 コンピュータによる 情報活用	1 表計算ソフトウェアの利用	○			学習の目標 情報処理の基礎的・基本的な知識と技術を活用し、農業の場面で大切となる生育状況や気温などのデータの整理・分析が行えるようになる。 処理したデータを発表できるように処理する能力を身に付ける。
		(1) 表計算ソフトの概要		○		
		〃	○			
		〃	○	○		
		(2) 表作成と表計算	○			
		〃	○			
		〃	○	○		
		(中間考査)	○	○		
					授業の進め方	
					身近な農業に関する問題やデータを活用し、興味・関心を高める。また、反復練習により確実な情報処理技術の定着を図る。	
7 8・9 9 10 11 12	第3章 コンピュータによる 情報活用	2 プレゼンテーションソフトウェアの利用	○			学習の方法 技術を通してコンピュータを活用する。また、総合実習や生産科目で得たデータを活用する。
		(1) プレゼンテーションソフトの概要		○		
		〃		○		
		〃		○		
		(1) プレゼンテーションソフトの概要			○	
		〃	○			
		(中間考査)	○	○		
		(2) プレゼンテーションソフトの応用			○	
		(2) プレゼンテーションソフトの応用	○			
		〃	○			
		〃		○		
		〃		○		
		(期末考査)	○	○		
					評価の観点	
					○知識・技術 農業に関する身近なデータをもとに、情報処理能力を身に付けようとしているか。プレゼンテーションソフトの使い方やプログラミングの機能・構成を理解しているか。 ○思考・判断・表現 プレゼンテーション能力やプログラミングによるアルゴリズムについて思考を深め、整理、分析、発信することができる。 ○主体的に学習に取り組む態度 農業における通信ネットワークや生産から加工、中道までのシステム化について社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。	
					評価の方法	
					定期考査・課題・実技・提出物・資格取得・学習態度を総合的に判断して評価する。	
【備考】						
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	農業	科目	野菜	単位数	2	
年組	2年1組		教科書(発行所)	野菜(実教出版)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目
			知	思	能	
4	第1章 野菜生産の役割と動向	1 野菜の種類と特徴 (1)野菜の種類と利用 (2)野菜の分類	○		○	学習の目標 ○野菜の生理作用や栽培技術に関する基礎知識を身に付けるとともに、実際の栽培体験に活用させる。 ○地域の栽培動向に興味・関心を持たせる。 授業の進め方 ○野菜栽培のプロジェクト活動を実施する。
5	第4章 果実を利用する野菜の栽培	5 メロン (中間考査) (1)栽培上の特性 (2)経営上の特性 (3)作型と品種の選び方 (4)栽培管理	○	○	○	
6		(5)商品価値を高める技術	○		○	
7		(期末考査)	○	○		
7	第2章 野菜の生育特性と栽培環境の調節技術	(6)栽培の評価 1 野菜の生育と生理 (1)野菜の生育 (2)種子と発芽		○	○	
8・9			○		○	
9					○	
10	第4章 果実を利用する野菜の栽培	1 トマト (1)栽培上の特性 (2)経営上の特性 (3)作型と品種の選び方 (4)栽培管理	○		○	学習の方法 ○は種から収穫まで、各生育段階ごとに必要な知識・技術を実体験から学ばせる。 評価の観点
11	第2章 野菜の生育特性と栽培管理の調節技術	(3)茎と葉の成長 (4)光合成の仕組みと物質の生産	○	○	○	
12		(期末考査)	○	○		
12		(5)根の発達と肥大 (6)葉菜類の花芽分化と抽だい	○		○	
1	第3章 野菜の品種改良と繁殖	(7)果菜類の花芽分化と果実の発育 (8)休眠 2 育苗の目的と方法 (1)育苗の意義と良苗の条件 (2)育苗・苗生産の歴史と現状 (3)野菜苗の育苗方法 (学年末考査)	○	○	○	<知識・技術> 野菜に関する基礎的な知識を身に付け、栽培方法について理解している。野菜栽培技術を適切に選択して活用している。 <思考・判断・表現> 野菜栽培に関する諸課題の解決を目指して思考を深めている。基礎的な知識と技術をもとに合理的に判断し、その過程や結果を適切に表現している。 <主体的に学習に取り組む態度> 野菜とその栽培に興味・関心を持ち、野菜の特性について探求しようとしている。 評価の方法 ○教室での活動と実習の調和を図る。特に実習においては、積極性や協調性を評価する。 ○観察記録が確実に取れているかを評価する。 ○自分で考え、行動できたかを評価する。
2			○	○	○	
3			3 野菜の育苗技術と応用	○	○	
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	農業	科目	果樹	単位数	2	
年組	2年1組		教科書(発行所)	果樹(実教出版)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目
			知	思	態	
4	第6章 カンキツ (甘夏・河内晩柑)	1 年間管理計画(GAP学習)	○			学習の目標 果樹の生理作用や栽培に関する基礎知識を身に付けるとともに、実習を通して、技術を定着する。 栽培を通して、地域の特産品である柑橘への理解を深め、他の果樹栽培への興味・関心を高める。
5		2 春肥			○	
		3 害虫防除(GAP学習)	○			
		4 せん定	○			
		(中間考査)	○	○		
		4 せん定			○	
		〃			○	
6		5 除草		○		授業の進め方 年間を通して実習を行い、1年間の果樹栽培を実践することにより、知識と技術の定着を図る。 教科書や参考資料を活用し、内容の定着を図る。
	〃			○		
7		(期末考査)	○	○		学習の方法 実習では、担当区域を設置し、果樹の栽培管理を学ぶ。積極的に取り組むこと。 座学では、実習内容の説明、振り返りを行う。集中して取り組み、疑問点は必ず指導を受けること。 家庭では、実習記録の記入、教科書、ノートを活用し復習を行い、知識の定着を図る。
7		5 除草			○	
		6 夏肥			○	
8・9		7 荒摘果	○			
		8 病虫害防除(GAP学習)	○			
9		9 秋肥			○	
		9 秋肥			○	
		(中間考査)	○	○		
10		10 防風垣刈り込み			○	
		11 仕上げ摘果	○			
		〃			○	
11		12 夏秋梢剪定	○			
		〃			○	
		〃			○	
12		(期末考査)	○	○		
						評価の観点 <知識・技術> 果樹栽培について、基本的な概念や生理現象を理解し、知識を身に付けている。実習を行い、柑橘栽培の技術を習得するとともに、その技術を活用することができる。 <思考・判断・表現> 果樹栽培の問題を見だし、思考を深め科学的に考察し表現できる。 <主体的に学習に取り組む態度> 様々な果樹栽培に関心をもち、意欲的に探求しようとする態度が身に付いている。
12		12 夏秋梢剪定			○	評価の方法 授業中の活動状況(授業態度、実習への取組)や提出物(ノート、ワークシート、実習記録)、定期考査(小テスト、確認テスト含む)により評価する。
		〃			○	
1		13 収穫・袋詰め(GAP学習)	○			
		〃			○	
		〃			○	
		〃			○	
2		〃			○	
		〃			○	
		(学年末考査)	○	○		
3		13 収穫・袋詰め(GAP学習)			○	
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	農業	科目	食品製造	単位数	2	
年組	2年 1組		教科書(発行所)	食品製造(実教出版)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目
			知	思	態	
4	第1章 食品製造の意義と動向	1 食品製造の意義	○			学習の目標 実習を中心に行い、衛生、安全面や加工実習から食品加工に関する知識や技術を学ぶ。
		2 食品産業の現状と動向		○		
		”			○	
5		中間考査	○			
		2 食品産業の現状と動向		○		
	第2章 食品製造の基礎	1 食品の分類			○	
		”	○			
6		”		○		授業の進め方
		2 身近な食品の科学		○		
7		期末考査	○			日頃の実習・プロジェクト活動をとおして知識・技術を習得する。
7	第3章 食品の変質と貯蔵	1 食品の変質とその原因	○			学習の方法 授業では食品及びその加工に関する知識を理解します。実習では反復学習によって、食品の加工に関する技術を習得します。
		”			○	
8・9		2 食品の貯蔵法		○		
		1 食品と食品衛生			○	
9	第4章 食品加工と食品衛生	”		○		
		2 食中毒		○		
		中間考査	○			
10		3 食中毒と気概要因	○			
		”			○	
		4 食品による危害と安全確保		○		
11		”	○			
		”		○		
12		期末考査	○			評価の観点
12	第5章 食品の包装と表示	1 食品の包装		○		評価の方法 態度・技術・知識・服装・実習記録簿の提出状況・考査を総合的に判断し評価する。
		”		○		
1		2 加工食品の表示制度	○			
		”		○		
		”		○		
2		3 食品と規格制度			○	
		”	○			
		”	○			
3		学年末考査	○			
		4 容器包装リサイクル法			○	
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	農業	科目	課題研究	単位数	2	
年組	3年 1組		教科書(発行所)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点 知 思 態			項目
4	計画	テーマの選定 計画の立案	○	○	○	学習の目標
5	実践	実践 ・調査研究 ・作品制作 ・資格取得	○	○	○	自ら研究課題を選定し、計画立案から実施まで意欲的に取り組む姿勢を身に付ける。 研究を通して、専門的な知識と技術を深め、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を身に付ける。
6			○	○	○	授業の進め方
7						自ら農業に関する課題を設定し、主体的に調査・研究に取り組み、課題の解決を図る。授業のまとめとして、1年間の研究成果をスライドを活用して発表を行う。
7	実践	実践 ・調査研究 ・作品制作 ・資格取得	○	○	○	学習の方法
8・9			○	○	○	学校では、計画に基づいて準備を行い、研究を行う。準備は授業開始までに行っておく。 家庭では、研究内容に関する書籍、インターネットなどを活用して調査を行い、研究内容について科学的な考察を行う。
9			○	○	○	評価の観点
10			○	○	○	<知識・技術> 地域や農業の課題を理解し、適切な計画を立てているか。 <思考・判断・表現> 実験実習の記録が整理され、結果に対する考察が科学的で十分であるか。 <主体的に学習に取り組む態度> 地域や農業の課題に興味・関心を持ち、調査・研究を意欲的に行っているか。
11			○	○	○	評価の方法
12	まとめ	まとめ ・活動報告会	○	○	○	授業中の活動状況(授業態度、研究への取組)や提出物(課題研究記録簿、課題研究報告書)、研究成果発表(資料作成、発表態度)により評価する。
1			○	○	○	
2						
3						
【備考】						
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	農業	科目	総合実習	単位数	4			
年組	3年1組		教科書(発行所)					
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目		
			知	思	態			
4	カンキツ (甘夏・河内晩柑) 栽培および プロジェクト活動	1 年間管理計画			○	学習の目標 安定した柑橘栽培の実践を通して、実践的な果樹栽培の知識・技術を身に付ける。 グローバルGAPに取り組み、国際的な視野で柑橘栽培を行う態度を養う。 果樹栽培と自然環境の関係性や安全な農産物について考え、生産者としての責任感を養う。		
5		2 春肥 "	○	○				
6		3 害虫防除	○	○				
		3 害虫防除	○	○				
		4 生育調査 "	○	○				
7		5 接ぎ木	○	○				
		6 除草 "	○	○	○			
授業の進め方								
柑橘栽培を行い、応用的な知識・技術の定着を図る。また、地域農家や関係機関との連携を行い、知識・技術を深め、実践的な経営感覚を養う。								
7	8・9 9 10 11 12	6 除草			○	学習の方法 国際的な視野で柑橘栽培に取り組み、グローバルGAPの実践的な知識・技術の定着を図る。 学習の方法 果樹栽培の応用的な知識・技術について、実践を通して身に付ける。 記録の整理や、圃場整備を通して、グローバルGAPに関する実践的な知識・技術を身に付ける。		
8・9		7 荒摘果	○	○				
9		7 荒摘果 "	○	○				
		8 病虫害防除	○	○				
10		9 防風垣刈り込み	○	○				
		10 仕上げ摘果 "	○	○				
		11 除草	○	○				
11		12 夏秋梢剪定 "	○	○				
		13 GAP資料まとめ "	○	○				
評価の観点								
<知識・技術> 果樹栽培について、基本的な概念や生理現象を理解し、知識を身に付けている。柑橘栽培の応用的な技術及びグローバルGAPの技術を身に付けている。								
12		12 1 2 3	14 GAP内部審査	○	○			<思考・判断・表現> 実験・実習の記録が整理され、思考を深め科学的に考察し表現できる。 <主体的に学習に取り組む態度> 柑橘栽培に関心を持ち、意欲的に技術を習得しようとする態度が身に付いている。
1			15 GAP審査会準備	○	○			
	16 収穫・袋詰め		○	○				
2	17 GAP審査会		○	○				
	3							
評価の方法								
実習内容の定着状況(知識・技術)や授業中の活動状況(授業態度、実習への取組)、実習記録簿の記入状況、農業クラブ活動により評価する。								
【備考】								
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。								

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	農業	科目	総合実習	単位数	4		
年組	3年1組		教科書(発行所)				
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目	
			知	思	態		
4	1 ミニトマトの栽培	1 は種			○	学習の目標 実習を中心にを行い、観察や体験から野菜栽培に関する知識や技術を学ぶ。	
5		2 栽培槽準備		○			
6		3 定植		○			
		4 整枝・誘引		○			
		5 プロジェクト活動		○	○		
7				○	○		授業の進め方 専攻班での実習・プロジェクト活動を通して、知識・技術を習得する。
7		2 ブロッコリーの栽培	6 収穫・調整		○		
8・9	1 耕うん			○			
9	2 は種			○			
	3 施肥・定植準備			○			
	4 定植			○	○		
10	5 防除・除草			○	○		
11			○	○	学習の方法 栽培計画に沿って調査・研究を行う。そして、その成果をまとめ発表する。		
12	6 収穫・調整		○	○			
12	3 まとめ	レポートのまとめ		○	○	評価の観点 <知識・技術> 野菜の特性を理解しているか。 基本的な栽培技術が身に付いているか。 応用・発展的な内容であるか。 栽培方法を理解しているか。 <思考・判断・表現> 実習の記録が整理され、結果に対する考察が十分であるか。 <主体的に学習に取り組む態度> 栽培実習の内容を理解し、主体的・計画的に取り組み、意欲的に進めているか。	
1				○	○		
2				○	○		
3					評価の方法 態度・技術・知識・服装・実習記録簿等を総合的に判断し評価する。		
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。							

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	農業	科目	総合実習	単位数	3	
年組	3年 1組		教科書(発行所)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目
			知	思	態	
4	1 春まき一年草	1 マリーゴールド栽培・管理			○	学習の目標 ○花栽培に関する基礎知識を理解し、季節ごとの草花栽培を行うための技術を身に付ける。 ○地域花壇の緑化活動に取組み、環境保護を行う態度を養う。 ○草花栽培と自然環境の関係性について考え、生産者としての責任感を養う。
5		〃	○			
6		2 ダイアンサス栽培・管理	○			
		3 バーベナ栽培・管理		○		
		4 メランポジウム栽培・管理			○	
		5 ニチニチソウ栽培・管理	○			
7		〃			○	
						授業の進め方 ○2年次に身に着けた基礎・基本的な知識・技術を活用して、草花栽培を行い、応用的な知識・技術の定着を図る。 ○日頃の実習内容の記録をまとめたり、花壇緑化活動の改善を行う。□ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
7	2 秋まき一年草	1 秋まき一年草栽培			○	学習の方法 ○草花栽培の応用的な知識・技術について、実践を通して身に付ける。 ○実習記録の記入や農具の管理を行い、安全な作業活動の知識・技術を身に付ける。
8・9		〃	○			
9		2 秋まき一年草鉢上げ		○		
		〃		○		
		〃			○	
		〃		○		
10		3 冬の草花管理	3 秋まき一年草鉢替え			
		4 花壇管理		○		
		〃			○	
11		〃		○		
		5 キンセンカ栽培・管理	○			
12	〃	〃			○	
						評価の観点 <知識・技術> 草花栽培について、基本的な概念や生理現象を理解し、知識を身に付けている。草花栽培の応用的な技術を身に付けている。 <思考・判断・表現> 実験・実習の記録が整理され、思考を深め科学的に考察し表現できる。 <主体的に学習に取り組む態度> 草花栽培に関心を持ち、意欲的に技術を習得しようとする態度が身に付いている。
12		6 ビオラ栽培・管理		○		評価の方法 実習内容の定着状況(知識・技術)や授業中の活動状況(授業態度、実習への取組)、実習記録簿の記入状況、農業クラブ活動により評価する。
		〃		○		
1		7 パンジー栽培・管理			○	
		〃		○		
2						
3						
【備考】						
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	農業	科目	総合実習	単位数	4		
年組	3年 1組		教科書(発行所)				
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目	
			知	思	態		
4	食品製造 ※実習科目により、 評価の観点は、 総合的に判断する。	1. オリエンテーション			○	学習の目標 実習を中心に行い、衛生面や安全面、加工実習から食品加工に関する知識や技術を学ぶ。	
5		2. 年間計画 "	○	○	○		
6		3. 農産物加工 (1)うどん製造 (2)ジャム製造 "	○	○	○		
7		(3)マーマレード製造 "	○	○	○		
						授業の進め方 専攻班での実習・プロジェクト活動をと おして知識・技術を習得する。	
7		4. 製菓製パン加工 (1)即席乳酸飲料製造	○	○	○	学習の方法 加工実習を行いながら、調査・研究を 行う。そしてその成果をまとめて発表す る。	
8・9		(2)スポンジケーキ製造 "	○	○	○		
9		(3)パウンドケーキ製造 "	○	○	○		
10		(4)マドレーヌ製造 " "	○	○	○		
11		" 5. 水産物加工 (1)じゃこてん製造	○	○	○		
12						評価の観点	
12		6. プロジェクト学習 (1)地域の特産品の活用	○	○	○	<知識・技能> 基本的な技術が身についているか。加工方法を理解しているか。 <思考・判断> 実習の記録が整理され、結果に対する考察が十分であるか。 <主体的に学習に取り組む態度> 実習の内容を理解し、主体的に取り組んでいるか。	
1		(2)地域の特産品の活用 (3)地域の特産品の活用	○	○	○		
2							評価の方法 態度・技術・知識・服装・実習記録簿を総合的に判断し評価する。
3							
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。							

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	農業	科目	野菜	単位数	2	
年組	3年1組		教科書(発行所)	野菜(実教出版)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目
			知	思	能	
4	第4章 果実を利用する野菜の栽培 第2章 野菜の生育特性と栽培環境の調整技術	5 トマト	○			学習の目標 ○野菜の生理作用や栽培技術に関する基礎知識を身に付けるとともに、実際の栽培体験に活用させる。 ○地域の栽培動向に興味・関心を持たせる。 授業の進め方 ○トマトと露地野菜のプロジェクト活動を実施する。
5		6 ナス		○		
		(中間考査)	○	○		
		7 ピーマン			○	
6		2 野菜の栽培環境と生育調節		○		
		(1)光環境とその調節	○			
		(2)温度環境とその調節		○		
	(3)湿度環境とその調節			○		
7		(4)風・ガス環境とその調節			○	
		(期末考査)	○	○		
7	第5章 葉や茎を利用する野菜の栽培 第7章 野菜の流通と経営改善	(5)地下部の環境とその調節	○			学習の方法 ○は種から収穫まで、各生育段階ごとに必要な知識・技術を実体験から学ばせる。 評価の観点 <知識・技術> 野菜に関する基礎的な知識を身に付け、栽培方法について理解している。 野菜栽培技術を適切に選択して活用している。 <思考・判断・表現> 野菜栽培に関する諸課題の解決を目指して思考を深めている。 基礎的な知識と技術をもとに合理的に判断し、その過程や結果を適切に表現している。 <主体的に学習に取り組む態度> 野菜とその栽培に興味・関心を持ち、野菜の特性について探求しようとしている。
8・9		(6)合理的作付けと輪作			○	
9		3 人口環境における栽培技術			○	
		(1)露地栽培			○	
		(2)施設を利用した栽培	○			
		(3)養液栽培			○	
10		(4)植物工場	○			
		1 キャベツ			○	
		2 ハクサイ			○	
		4 ブロッコリー	○			
11	8 タマネギ			○		
	1 野菜の流通と鮮度保持			○		
	2 加工・業務用野菜			○		
12		(期末考査)	○	○		
12	第6章 根を利用する野菜の栽培	3 野菜生産の経営改善			○	評価の方法 ○教室での活動と実習の調和を図る。特に実習においては、積極性や協調性を評価する。 ○観察記録が確実に取れているかを評価する。 ○自分で考え、行動できたかを評価する。
1		1 ダイコン			○	
		2 ニンジン	○			
2					○	
3						
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	農業	科目	選択草花	単位数	2		
年組	3年1組		教科書(発行所)	草花(実教出版)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目	
			知	思	態		
4	第4章 草花の特徴と栽培技術	バイオテクノロジーを利用した繁殖と品種改良	○			学習の目標 ○草花の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 ○草花の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ○草花の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	
5		草花の栽培管理 (中間考査)	○	○			
6		生産施設と栽培環境の調節 環境調節設備の利用	○				
7		複合環境制御 (期末考査)	○	○			
授業の進め方							
○年間を通して実習を行い、1年間の草花栽培を実践することにより、知識と技術の定着を図る。 ○教科書や参考資料を活用し、内容の定着を図る。□							
7		第5章 切り花生産	経営的特色 栽培管理の特色	○	○		
8・9	鉢の種類		○				
9	用土		○	○			
10	水と肥料 (中間考査) 鉢花の種類と栽培上の特徴		○	○			
11	第6章 鉢もの生産 鉢もの生産の特色 鉢もの生産と商品化技術		○	○			
12	花鉢もの サボテンと多肉植物 (期末考査)		○	○			
評価の観点							
<知識・技術> 草花の生理・生態や生育環境などの草花生産に必要な知識と技術を体系的・系統的に理解し、身に付けている。 <思考・判断・表現> 生産や経営に関する課題を発見し、草花生産が果たす社会的な意義と役割などを踏まえるとともに、職業人に求められる倫理観をもって、解決する力を身に付けている。 <主体的に学習に取り組む態度> 品質と生産性の向上を目指し、主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。							
12	第7章 花壇用草花生産	花壇用草花の特色 花壇用草花の利用と定植後の管理	○	○		評価の方法 ○授業中の活動状況(授業態度、実習への取組)や提出物(プリント、実習記録)、定期考査(小テスト、確認テスト含む)により評価する。	
1		第8章 草花経営の改善 草花の生産と経営 ユニバーサル農業の視点 (学年末考査)	○	○			
2			○				
3			○				
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。							

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	農業	科目	選択草花	単位数	2		
年組	3年 1組		教科書(発行所)	草花(実教出版)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目	
			知	思	態		
4	第4章 草花の特徴と栽培技術	バイオテクノロジーを利用した繁殖と品種改良	○			学習の目標 ○草花の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 ○草花の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ○草花の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	
5		草花の栽培管理 中間考査 生産施設と栽培環境の調節		○			
6		環境調節設備の利用 複合環境制御	○		○		
7		期末考査	○		○		
授業の進め方 ○年間を通して実習を行い、1年間の草花栽培を実践することにより、知識と技術の定着を図る。 ○教科書や参考資料を活用し、内容の定着を図る。□							
7		第5章 切り花生産	経営的特色 栽培管理の特色		○		
8・9			鉢の種類		○		
9	用土			○			
10	水と肥料 中間考査 鉢花の種類と栽培上の特徴			○	○		
11	第6章 鉢もの生産		鉢もの生産の特色 鉢もの生産と商品化技術 花鉢もの		○		
12	サボテンと多肉植物 期末考査			○	○		
学習の方法 ○実習では、は種、鉢上げ、販売など、草花の栽培方法や活用方法を学ぶ。 ○座学では、実習内容の説明、振り返り、教科書を活用した学習を行う。 ○家庭では、実習記録の記入、教科書、プリントを活用し復習を行い、知識の定着を図る。							
12	第7章 花壇用草花生産	花壇用草花の特色 花壇用草花の利用と定植後の管理			○	評価の観点 <知識・技術> 草花の生理・生態や生育環境などの草花生産に必要な知識と技術、草花生産の計画、管理、評価などの草花経営に関する知識と技術を体系的・系統的に理解し、身に付けている。 <思考・判断・表現> 生産技術や生産工程、経費や流通・販売方法などの生産や経営に関する課題を発見し、地域の草花経営の実践事例や草花生産が果たす社会的な意義と役割などを踏まえるとともに、環境への配慮や法令遵守など、職業人に求められる倫理観をもって、科学的な根拠などに基づいて創造的に解決する力を身に付けている。 <主体的に学習に取り組む態度> 品質と生産性の向上を図るとともに、安全で安心できる草花の生産と経営を目指す。 その振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む	
1		第8章 草花経営の改善	草花の生産と経営 ユニバーサル農業の視点 期末考査		○		
2					○		
3					○		
評価の方法 ○授業中の活動状況(授業態度、実習への取組)や提出物(プリント、実習記録)、定期考査(小テスト、確認テスト含む)により評価する。							
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。							

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	農業	科目	食品製造	単位数	3	
年組	3年 1組		教科書(発行所)	食品製造(実教出版)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目
			知	思	態	
4	第6章 農産物の加工	1 穀類の加工	○		○	学習の目標 ○食品製造に必要な基本的な知識と技術を習得させ、食品の特性と加工方法及び貯蔵の原理を理解させるとともに、地域にある食材を活用して地域に貢献する意欲と態度を育てます。
		〃			○	
		〃			○	
5		2 豆類・種実類の加工	○		○	
		中間考査			○	
		3 いも類の加工	○		○	
		〃			○	
6		4 野菜類の加工	○		○	
		〃			○	
		〃			○	授業の進め方 座学・実習を半分ずつ行う。実習では、体を動かすことを通して食品加工に関する基本的な知識と技術を学びます。
7		期末考査	○		○	
7	第7章 畜産物の加工	5 果実類の加工			○	学習の方法 授業では、食品及びその加工に関する知識で理解をします。実習では反復学習によって、食品の加工に関する技術を習得します。
		〃			○	
8・9		〃			○	
9		1 肉類の加工	○		○	
		〃			○	
		〃			○	
10		2 牛乳類の加工	○		○	
		〃			○	
		中間考査			○	
		3 鶏卵の加工	○		○	
	〃			○		
11	第8章 発酵食品の製造	1 発酵食品の特徴と種類	○		○	評価の観点 <知識・技術> 衛生・安全に適していることを理解しているか。基本的な加工技術が身についているか。応用、発展的な内容であるか。加工方法を理解しているか。 <思考・判断・表現> 実験・実習の記録が整理され、結果に対する考察が十分であるか。 <主体的に学習に取り組む態度> 加工実習の内容を理解し、主体的・計画的に取り組む、意欲的に進めているか。
		2 みそ・しょうゆの製造	○		○	
		〃			○	
12		〃			○	
12	第9章 食品製造の実践と企業化	1 品質管理	○		○	評価の方法 態度・技術・知識・服装・実習記録簿の提出状況・考査を総合的に判断し評価する。
		〃			○	
1		2 食品製造の実践			○	
		〃			○	
		〃			○	
2		学年末考査	○		○	
3					○	
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	農業	科目	地域資源活用	単位数	2	
年組	3年1組		教科書(発行所)	草花(実教出版)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目
			知	思	態	
4	第1章 地域資源活用とは	地域資源とその活用	○		○	学習の目標 ○地域資源活の活用について体系的、系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 ○地域資源の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ○地域資源の活用について新たな価値の創造に寄与できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 授業の進め方 ○町内でフィールドワークを実施する。 ○教科書や参考資料、プリントを活用し、内容の定着を図る。□
5	第2章 農山村社会の変化と地域振興	地域資源活用とプロジェクト学習 農山村と都市の現状と変化 地域活性化に向けた施策・取組 (中間考査)	○		○	
6	第3章 地域資源活用の意義と役割	地域資源の魅力と価値 地域振興に向けた施策と取組 異業種連帯と商品価値の創造 "	○		○	
7		情報の発信と活用 (期末考査)	○		○	
8	第4章 地域資源の価値と活用	地域資源の見つけ方と活用			○	
9	8・9	観光への活用 商品開発への活用 サービス業への活用	○		○	
10	第5章 地域と連帯した活動	教育・福祉への活用 (中間考査) 地域資源のマーケティングとブランドづくり 地域資源を活用したサービス "	○		○	
11		農業のユニバーサルデザイン化 "	○		○	
12		地域振興活動と評価 (期末考査)	○		○	学習の方法 ○フィールドワークでは、調査方法について学習する。 ○座学では、調査内容の説明、振り返り、教科書を活用した学習を行う。 ○家庭では、教科書、ノートを活用し復習を行い、知識の定着を図る。 評価の観点 <知識・技術> 農林業・農山村の特色や地域資源の有用性についての学習を通して、関連する知識と技術を体系的・系統的に理解し、身に付けている。 <思考・判断・表現> 地域資源を活用した地域の振興について、環境への配慮や法令遵守などの職業人としての倫理観をもって、科学的な根拠などに基づいて創造的に解決する力を養うことができる。 <主体的に学習に取り組む態度> 地域振興の担い手として、新たな価値の創造などに主体的かつ協働的に取り組む態度を養うことができる。
12	第6章 地域資源活用の実践	地域資源活用の企画と実践 "	○		○	評価の方法 ○授業中の活動状況(授業態度、フィールドワークへの取組)や提出物、定期考査(小テスト、確認テスト含む)により評価する。
1		高校生による実践例 "			○	
2		(学年末考査)	○		○	
3						
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						